

【姿の期 10月】

京都市立下京中学校
校長 安居 昌行

「多様性を認め合い、飛翔する」

姿の期間が始まり早1か月。定期テストも終わり10月に入ると、「合唱コンクール」、学校祭「文化の部」、「体育の部」と大きな行事が立て続けに開催されます。各教室やフロアでは毎日合唱練習の歌声が響き、活動や作業も続いています。歌声を聴いていると、一人一人の顔や姿が違うように、それぞれ自分の声があり、その違った声が一つにまとまって美しい合唱となっていきます。そこには、学級や学年の「集団」としてのまとまりを創ろうと頑張っている生徒の皆さんの一つのことを作り上げようとする素晴らしい姿が見られます。

さて、今年は雨の多い夏でした。最近になってやっと朝夕涼しくなり、夕方になり耳を澄ませると、虫の声が聞こえるようになってきました。暑い夏には気づきませんでした。私たちの身の回りには、よく観察するとたくさんの虫（昆虫）を見つけることができます。この昆虫たちは百万種以上いるそうです。「・・・その潜在的な多様性からすれば、実は“地球は昆虫の惑星”といっても過言ではないくらい、昆虫が隆盛を極めている。・・・どうして昆虫はこのような多様性をきわめたのだろうか。・・・それは、“飛ぶこと”と“変態すること”である。・・・大部分の昆虫は成虫期に飛翔し、成長の過程で変態を行う。・・・チョウを思い出していただくとわかりやすいだろう。」（『昆虫はすごい』丸山宗利著）

私たち人間も、多様性の中で生活しています。また、一人一人は顔や姿、声も異なり、生活環境や成長の過程における体験も違ってきます。その多様な仲間が「学習と生活」の「集団」を形成しています。思春期の中にいる皆さんは、大人へと脱皮し、飛び立とうとする大切な時期にいます。行事を通して互いの違いや多様な考え方を認め合い、高めあう努力をしてほしいと思います。そして、「多様とは豊かなことなのです。ただしそういう豊かさを味わえるためには、受け取り手側が多様な価値に対して開いている、つまり自分自身が多様である必要があります。」（『生物多様性』本川達雄著）常に自分を見つめ、大きく飛翔していくための力を蓄えてほしいと思います。



（アゲハチョウと曼珠沙華 府立植物園にて）